

昨年度からの新型コロナウイルス感染症による渡航制限や移動制限は長期化の様相を見せており、アーティスト・イン・レジデンス（AIR）をはじめ移動を伴うプロジェクトの実施には様々な困難が伴う状況が続いています。

これまでアーティストと地域の人々との関わり合いを創出してきた AIR プログラムですが、特にコロナ禍においては、「関わり」について新たな思考が求められているようです。日本各地で個性豊かなプログラムを実施する運営者やキュレーターのお話を通して、コロナ禍で、あるいは、コロナ以降にアーティスト・イン・レジデンスはどのような「関わりの方法」を持ちうるのかを中心に考えるシンポジウムを開催します。

日時：2021年11月4日（木）13：30～16：30

会場：京都芸術センター フリースペース／オンライン参加

料金：無料

対象：文化庁「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」採択団体、アーティスト・イン・レジデンス運営者、アーティスト、アーティスト・イン・レジデンスに関心のある方

プログラム

13:30 アーティスト・イン・レジデンス活動報告

BEPPU PROJECT | 山出淳也 (NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事/アーティスト)

Hospitale Project | 赤井あずみ (Hospitale Project プログラム・ディレクター)

15:00 休憩

15:15 ディスカッション「関わりの方法としてのアーティスト・イン・レジデンス」

赤井あずみ × 小田井真美 (さっぽろ天神山アートスタジオ AIR ディレクター) × 山出淳也 × 服部浩之 (キュレーター/進行)

16:15 Res Artis Bangkok ミーティング報告

申し込み方法

現地参加

定員：30名程度（先着順）
下記フォームよりお申込み
ください

<https://forms.gle/U2mPHewLxzWKJAy9>



オンライン参加

(zoom ウェビナー)
定員：500名（先着順）
下記フォームよりお申込み
ください

<https://forms.gle/Ra9LLhPip9kVZs696>



KASHIMA 2019 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE
中山晃子パフォーマンス 撮影：紅葉谷昌代
©BEPPU PROJECT



Hospitale Project / 野村誠ライブ・パフォーマンス
photo: Ryoko Tanaka



さっぽろ天神山アートスタジオ
©Aaron McLaughlin,

登壇者プロフィール

赤井あずみ（あかい・あずみ）／ Hospitale Project

Hospitale Project プログラム・ディレクター。1975 年生まれ。トーキョーワンダーサイト、あいちトリエンナーレ 2010 を経て、2012 年鳥取市街地の廃病院にて展覧会「HOSPITALE」を企画、以来アーティスト・イン・レジデンス・プログラムを柱とするアート・プロジェクトとして活動を続ける。2013 年には旧旅館施設に「ことめや」をオープンし、コワーキング・スペースやレジデンス事業のほか、人の営みにまつわるさまざまな事柄についての企画を行う。現在、鳥取県立博物館美術振興課および鳥取県立美術館整備局 主任学芸員（近現代美術）。

小田井真美（おだい・まみ）／さっぽろ天神山アートスタジオ

さっぽろ天神山アートスタジオ AIR ディレクター。1966 年広島市生まれ。npo S-AIR（北海道）、Trans Artists（オランダ）、アーカスプロジェクト（茨城）、VISUAL ARTS FOCUS（フランス）など国内外の AIR 事業とその背景に関するリサーチ及び、AIR 事業設計・事業運営や創造的活動のための環境整備に多数関わる。現在はアートトリサーチセンター、さっぽろ天神山アートスタジオ AIR ディレクター。チームやめようメンバー。

山出淳也（やまいで・じゅんや）／ NPO 法人 BEPPU PROJECT

NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事／アーティスト。1970 年生まれ。文化庁在外研修員としてパリに滞在（2002～04）。アーティストとして国際的に活躍した後、2004 年に帰国。2005 年に BEPPU PROJECT を立ち上げ現在にいたる。混浴温泉世界実行委員会 総合プロデューサー（2009～）、第 33 回国民文化祭・おおいだ市町村事業 アドバイザー、文化庁 審議会 文化政策部会委員（第 14 期～16 期）、グッドデザイン賞 審査委員（2019 年～）、山口ゆめ回廊博覧会コンダクター（2019 年～）などを歴任。平成 20 年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞（芸術振興部門）。

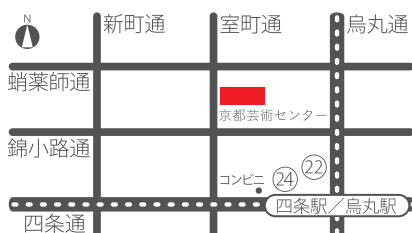
服部浩之（はっとり・ひろゆき）

キュレーター。1978 年愛知県生まれ。愛知・秋田拠点。早稲田大学大学院修了（2006、建築学）。秋吉台国際芸術村（2006-2009）、国際芸術センター青森（2009-2016）で約 10 年間アーティスト・イン・レジデンスに従事する。アジアの同時代の表現活動を研究し、様々な表現者との協働を軸にしたプロジェクトを展開。近年の企画に、第 58 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示「Cosmo-Eggs| 宇宙の卵」（2019 年）、「200 年をたがやす」（2021 年、秋田市文化創造館）など。現在、秋田公立美術大学大学院と東京藝術大学大学院で教鞭をとる。

問い合わせ

京都芸術センター

〒604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2
TEL 075-213-1000 FAX 075-213-1004
E-mail residence@kac.or.jp
<https://www.kac.or.jp/>
地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」
22 番・24 番出口より徒歩 5 分。
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、やむなく開催内容に変更がある場合があります。

現地参加のみなさまへ

- ・ 37.5℃上の発熱のある方や体調不良の方はご入場できません。
- ・ マスクの着用、こまめな手指消毒、ソーシャルディスタンスの保持にご協力ください。